



	徳育科のパイオニア コミュニティ・スクール <b>八小だより</b> 武蔵村山市立第八小学校 平成29年1月10日 <a href="http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced8s/index.html">http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced8s/index.html</a>	教育目標 ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子
		行動目標 わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人

## 多面的に考え、適切に判断する力を養う

校長 牧 一彦

あけましておめでとうございます。今年のお正月は例年になく温暖な気候で、とても過ごし易い日々でした。保護者・地域の皆様には、御家族おそろいでよい年をお迎えのことと思います。本校では本日、第3学期の始業式を実施いたしました。どの教室からも子供たちの元気な笑い声が響いています。

年明けのある日、普段はあまり見ることの無いテレビを付けてみると、あるバラエティ系の番組の中で、次のような言葉が飛び込んできました。

「2017年、地震予知は無くなる。予知は意味がない。」  
 「温暖化により、北極の氷が溶けても問題は無い。」  
 「地球上の石油はあと600万年分ある。よって代替エネルギーは不要。」

これらの発言は、ひな壇に並んだある環境学者の発言であり、それぞれ、これまでの常識的な考えからは、かけ離れた内容になっていました。しかし、それぞれの発言の根拠には、一部納得できる部分も含まれており、全くでたらめを言っているわけではないという構成でした。例えば「阪神淡路大震災も中越地震も東日本大震災も、全て起こると予想した地域とかけ離れた場所で発生している。よって今後も地震予知は当たるとは考えられない」という論理です。一視聴者である私にとっては「一部の未知の事実に触れ、そういう見方や考え方もあるのか」と視野を広げることができたような気はしました。番組は、このような極論を並べ立て、視聴者の興味を引きつけようと意図されたものと思われます。常識的なことを理解していたり、極論の弱点を見極め、そうでであってもできないことがわかっていたりする大人が見る分には影響は少ないと思われます。しかし、生活経験や知識量が少なく判断力が未熟な子供が見ていたらどうでしょう。これらの内容を、例えば常識的な事実として鵜呑みにしてしまうことは、極めて危険なことだと思いました。

昨今は、たとえ子供でもインターネットやスマホ、テレビ等のメディアを通じて様々な情報を得ることができます。しかし様々な情報の中には、多くの真実に紛れて偽りの情報や子供の健全な成長の妨げになるものが含まれている可能性があります。周りの大人たちが、アンテナを高く掲げ、そのような悪影響を受けることを最小限にしていかななくてはならないと改めて思いました。

学校では、主として社会科と理科の学習で「節水・節電など資源の有効利用」や「公害から生活環境を守ることの大切さ」を扱い、環境保全の大切さについて指導しています。一方、本校独自の「徳育科」を通じて、「善悪を判断する力」や「多面的・多角的に考える力」を育てるために、様々な考えを発表し合い、自分の考えと友達の考えを比較し、その違いに気付いたり、自分の考えを見直したりする学習を進めています。これらの学習を通して、例えばこの環境学者の発言を、「物事のある一面からしか捉えていない考え」であることを判断できる力を付けられればと思います。

本年も子供たちのために、全職員の叡智を集めて努力してまいります。保護者・地域の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。